

〈 こども特別賞 〉

土地の管理-林業から考えた-

宮田 心夏

私たちは町田市の主催する、林業体験で長野県に行きました。宿泊施設から徒歩五分の場所で、周りの木が育ちやすいように、小さな木や細い木をノコギリで切る作業をさせてもらいました。

そんな中、「あっ、十個目み一つけたっ。」三年生の妹が、満面の笑みで係のお兄さんに伝えたのは、フンです。鹿のフンのかたまりです。妹は宝さがしと言っています。そして四年生の妹は鳥の巣を見つけて嬉しそうにそーっつと移動させていました。こんなに近くに野生動物が来ていて、私は驚きました。

後で、お母さんと鹿のフンの話になった時に、お母さんは、「良くないことで、困っているんだよ。」と言って、話し始めました。

鹿野のフンがあるのは、人里にまで鹿が来ている証拠です。苗木を鹿が食べると、木材を作る側は、困ってしまいます。

そして他にも、鹿は悪意無く、病気の元になる未知のウイルスを運んでいる可能性があります。野生動物に寄生するダニはニュースにもなっている SFTS の原因です。林業体験をする時にダニに血を吸われるとイヤだから、私は暑くても長袖長ズボンで白っぽい服を選びました。それは、もしダニがくっついたらすぐ分かるようにです。でも、目が悪くなった田舎のおじいちゃんたちが心配です。

野生動物が人里に来ないようにするためにはどうしたらいいのか、たくさん考えました。私は、柵を作る、保護施設に回収する、山奥に住んでもらえるようにする、鹿肉にして食べるなどの案を出しました。けれど、どれもお金がかかりすぎたり、メンテナンスが大変だったり、可哀そうでした。

そしてそもそも、野生動物が人里に降りて来なければいいという考えにたどり着きました。だから、柵を作る前に野生動物と人間の住みかをはっきりさせるのが良いと思います。そうすれば、臆病な野生動物は人里に来ず、山で幸せに暮らします。空地は荒れ放題にせず、お手入れをして、「ここは人間の場所だから来ちゃダメだよ。」と、言葉の分からない動物にメッセージを送ればいいのです。そうすれば、人も動物もみんな安心して生活できると思います。

林業体験は、木を切って倒すのが気持ち良かったです。だから土地を持っているけれど、お手入れが難しい人は、小学生に頼んだら子供は喜んでやと思います。このように、空地をちゃんと管理したら、空地は人間にも野生動物にも良いものになります。